

平成 30 年度 産業技術連携推進会議 ライフサイエンス部会

第 23 回デザイン分科会 議事録

期 日：平成 30 年 6 月 28 日（木）～6 月 29 日（金）

場 所：1 日目 デザイン分科会本会議

（地独）北海道立総合研究機構本部 道総研プラザ セミナールーム他
（北海道札幌市北区北 19 条西 11 丁目）

2 日目 視察研修会

午前 モエレ沼公園 ガラスのピラミッド内ワークスペース
（北海道札幌市東区モエレ沼公園 1-1）

午後 ヤンマーアグリソリューションセンター北海道
（北海道江別市工業町 10-6）

主 催：産業技術連携推進会議 ライフサイエンス部会 デザイン分科会
地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 工業試験場

【6 月 28 日・一日目】デザイン分科会本会議

受 付：道総研プラザ 1 階 セミナールーム前 12：30～13：00

開 会：本会議（道総研プラザ 1 階セミナールーム）13：00～

1. 挨拶

- | | |
|----------------------------|--------|
| ・デザイン分科会長 | 川口 比呂志 |
| ・産業技術連携推進会議ライフサイエンス部会 副部会長 | 宮田 なつき |
| ・北海道立総合研究機構工業試験場 場長 | 片山 直樹 |



川口氏(佐賀県)



宮田氏(産総研)



片山氏(道総研工業試験場)

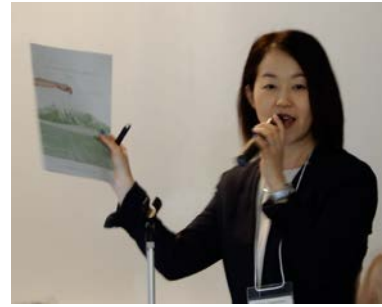
2. 議 事

1) デザイン政策紹介13：20～13：40

①「知的財産関連のデザイン施策について」

経済産業省 北海道経済産業局 地域経済部産業技術課 知的財産室
知的財産係長 山田 奈緒 様

北海道の産業構造の特徴として、全国に比べて製造業の割合が低い(全国 18.6%、北海道 8.6%)こと、道内企業等の知的財産活用を見ると特に商標出願件数割合が多い(全国 31.3%、北海道 64.8%) ことなどについて説明があった。次に、経済産業局が取り組むデザイン創造・支援事業として、平成 27 年から実施中の食品メーカーなどを対象としたデザインコンペ事業「パッケージデザインコンテスト北海道」について紹介があった。この事業によって実商品化に結びついた事例や、デザインのリニューアルで商品イメージを大幅に変えた事例が複数生まれており、確実に成果が出ている。



山田氏 (北海道経済産業局)

② 「知的財産関連のデザイン施策について」

札幌市 経済観光局 産業振興部立地促進・ものづくり産業課

ものづくり産業係長 柴垣 孝治 様

札幌市に入庁 14 年目にして初めて経済部所属となり、ものづくり支援事業に携わる。現在、「札幌ものづくり×デザイナープロジェクト」のリーダーとして、札幌市内の企業とデザイナーの連携プロジェクトを統括している。事業開始当初は企業の応募件数が少なかったが、昨今、(株)コボの山村氏をアドバイザーとして迎え、セミナーや企業訪問によって本事業への参加を積極的に働きかけたことにより、企業の参加意欲が大きく高まり、今年度は定数を上回る応募状況となっている。市役所は特に中期計画検討時に新しい施策アイデアを求めており、「公設試だけでは実施が難しいデザイン関連の取り組みを施策企画案として持ち込んでみては」、との提案があった。



柴垣氏 (札幌市)

2) 研究交流会 13 : 40 ~ 15 : 40

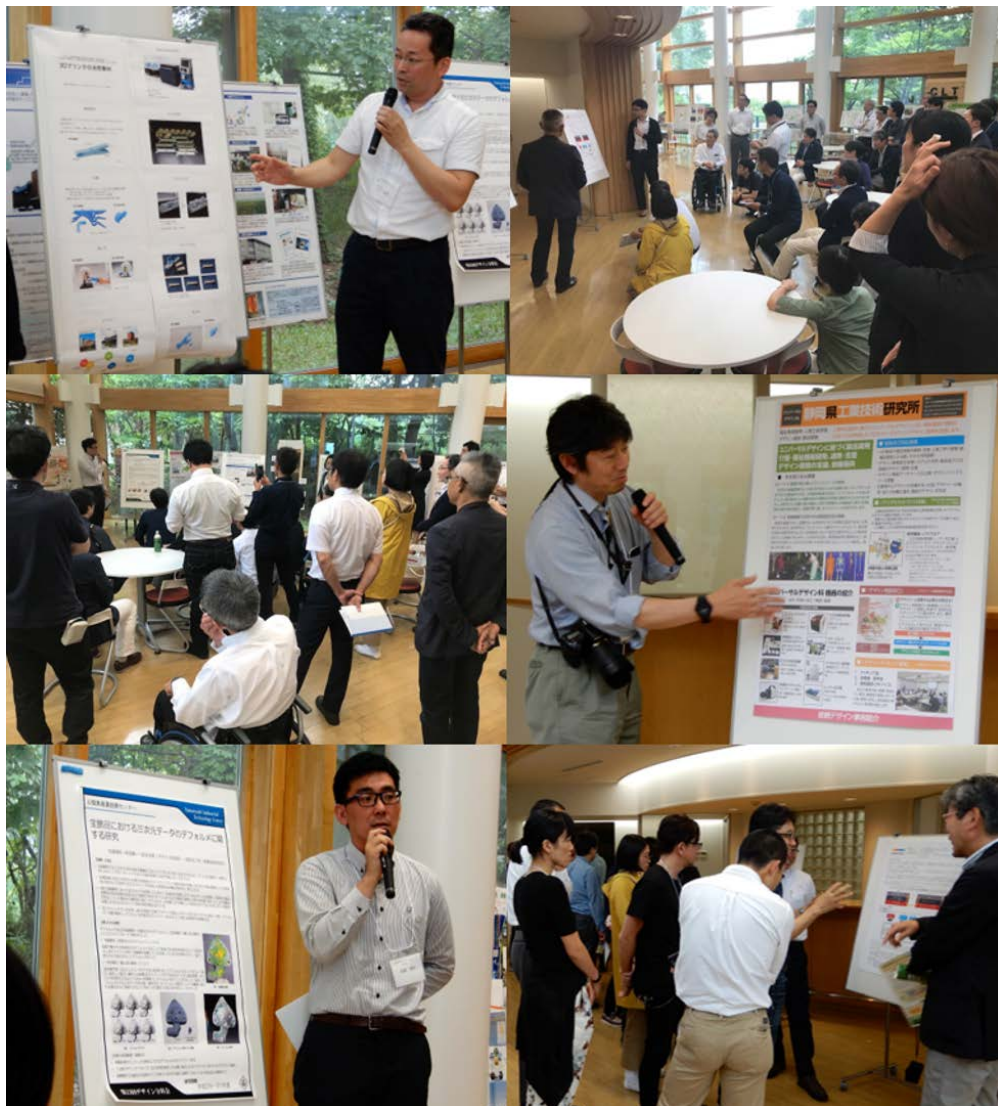
地域デザイン振興、ものづくりデザイン、ユニバーサルデザイン、デザイン活用ツールの 4 つの研究會に分かれ、それぞれ意見交換を行った。今回は、開催機関(北海道)が事前にデザイン分科会メーリングリストを通じて実施した、「デザイン分科会に関するアンケート」の結果を踏まえ、研究交流会で使用する情報提供資料の事前共有を試みた。

- ・地域デザイン振興研究交流会 (3階 プロジェクトルーム)
- ・ものづくりデザイン研究交流会 (工業試験場 1階第2会議室)
- ・ユニバーサルデザイン研究交流会 (工業試験場 1階プロジェクト支援ルーム)
- ・デザイン活用ツール研究交流会 (1階 セミナールーム 3)

3) ポスターセッション (1階ロビー)15:55~16:20

12件のポスター発表があり、このうち11件について発表者が1分プレゼンテーションを行った。「都民参加の防災デザイン」(東京都森氏)、「AIを活用したデザイン開発」(神奈川県村石氏)、「生活支援ロボットのデザイン支援」(神奈川県守谷氏)、など特に今日的なテーマが特徴的であった。また、「3Dプリンタ・3次元スキャナ活用」(滋賀県山下氏、山梨県佐藤氏)、「ユニバーサルデザイン」(静岡県多々良氏)など、公設試デザインセッションのベーシックな取り組みについても紹介があった。さらに、「バーチャル仏壇アプリケーションの開発」(滋賀県野上氏)という非常にユニークな取り組みも見られ、少ない時間ではあったが、それぞれについて熱心な意見交換が行われた。

1	(地独) 岩手県工業技術センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆と金属の分子接合技術の開発 ・ 樹脂部品への漆工技術開発 ・ 南部鉄器の錆肌模様をデジタル作成しました ・ 岩手県オリジナルブランド醤油の開発
2	(地独) 東京都立産業技術研究センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都民参加で学校や住宅地の防災デザインを研究~中小・ベンチャー企業の防災製品開発に活用~
3	(地独) 神奈川県立産業技術総合研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品デザインのための造形コンセプト支援システムに関する研究
4	(地独) 神奈川県立産業技術総合研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・ デザインを活用した「売れる商品づくり」に向けて
5	山梨県産業技術センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ モモ・ブドウの肥大促進技術の確立とブランディングに関する研究 ・ 宝飾品における3次元データのデフォルメに関する研究
6	静岡県工業技術研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルデザインに基づく製品開発、介護・福祉機器開発、連携・支援、デザイン開発の支援、情報提供
7	滋賀県工業技術総合センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3Dプリンタの活用事例
8	滋賀県東北部工業技術センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ バーチャル仏壇アプリケーションの開発



4) 全体会議 (1階セミナールーム)16:20~17:00

a) 各研究交流会の報告と全体討議

【地域デザイン振興研究交流会】(研究交流会幹事:千葉県岡村氏)

- ・参加者は17名。
- ・当研究交流会は毎年多数の御参加をいただいております。資料にあるとおり各都道府県によって、そこにある地域資源やデザイン振興の切り口も様々。今回の分科会では、事前にほとんどの参加者の資料を閲覧できる御準備をいただいたこともあり、参加者各々が個別に聞きたい案件に関し、内容を深掘りできるように、1対1のお見合い形式で個別に意見交換することを試みた(資料のない方は、研究会冒頭に口頭で情報提供をいただいた)。
- ・初めての試みでもあり、「やはり全体で資料に対する簡単な発表を受けた後に始めては？」との御意見をいただき、まず全体を一巡する発表を行った。内容は大きく分けると、「研究開発として地場の特産に取り組んだ事例」と「地場の背景に基づいたデザイン支援スキームの実施」に関してであった。一例として「地域遺産の土偶をスキャンした3Dデータを、商品開発に向け、どの程度デフォルメするか(山梨県)」や、「刑務所と自治体とのコラボレーションによるデザイン開発(広島県)」等があった。又、2つの大学が参加され、立地に依らないデザイン支援メニューに関し情報提供をいただいた。
- ・全体発表の後、1対1形式で全員と顔を合わせる進行を行った。全体発表の時間もあり、お見合い時間は2分という限られたものであったが、総合印象として参加者間で活発な意見交換がなされ、会場全体の盛り上がりもあった。
- ・終了後の感想として「片方の人だけが話してしまう」、「懇親会でよいのでは」、「懇親会では話したい人と話せない場合があるのでよい」、「多くの人と顔合わせができる」、「ちょっと聞きたい場合に2分はちょうどよい」、「悩みを聞く場としてもよいのでは」等があった。又「1対1でなく、少数グループで密に話したら」という別形式の御提案もあった。



【ものづくりデザイン研究交流会】(研究交流会幹事:山口県松田氏)

3Dプリンターや3D-CADなどの3Dものづくり機器の活用・支援状況を中心に情報交換を行った(参加者8名)。

各機関からの主な報告は以下のとおり。

- ・佐賀県: 3D-CADによる製品開発支援(木製カトラリー)の他、赤外線熱画像計測装置による木製サッシの性能評価について報告があった。
- ・新潟県: 3Dプリンター活用事例について情報収集を行っている。3Dプリ

ンター関連の取り組みとしてTOM工法による積層モデル表面の加飾処理について報告された。

- ・滋賀県：麩菓子の加工機の製作支援事例を紹介。また今年度、樹脂系3Dプリンター（FDM方式）と金属3Dプリンター（FDM方式）を新たに導入予定とのこと。
- ・北海道：食品加工機械をターゲットとしたロボットセンター「ロボラボ」の新設について紹介があった。食品加工工場の人手不足対策や多品種少量生産対策として食品加工メーカーの生産性向上を目指した検討や技術習得が目的とのこと。3Dプリンターで目的に合わせたロボットハンドを製作する。
- ・横浜市：横浜市のデザインの取り組みとして、デザイン産学連携プログラムを中心に紹介された。自社の技術・製品・商品等の新たな展開を考えている中小企業がテーマを提示し、デザイン系教育機関の学生が自らの感性や発想等の強みを活かした提案に取り組んでいる。
- ・山口県：3Dものづくり機器の活用事例を報告。今年度新たに粉末焼結式樹脂造形機を導入予定であり、構造最適化シミュレータの導入も予定していることを紹介した。3D積層モデルの表面処理については今年度ブラスト装置による表面研磨について検討する予定であることを紹介した。
- ・その他：3Dプリンターの利用例として低価格3Dプリンター（FDM方式）で製作した物を商品（トランペット用ミュート：練習時にトランペットの音を抑制する道具）として売り出した事例が紹介された。（東北工業大学：菅原氏）
- ・また、民間デザイン事務所と公設試の役割分担について意見交換した。「料金を頂いて最終デザインまで支援する」、「プロダクトデザイナーが極端に少ないため支援を行っている。」、「デザイン支援業務はそもそも民業圧迫では？」と思われる。など、各公設試が置かれた状況に応じて、民間デザイン事務所との棲み分けの考え方も異なっていた。



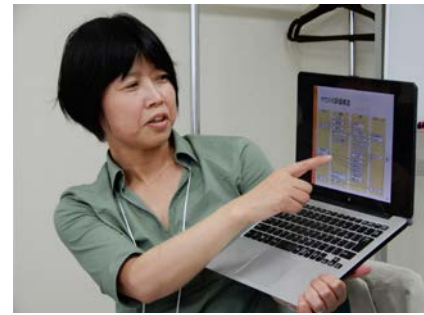
【ユニバーサルデザイン研究交流会】（研究交流会幹事：静岡県多々良氏）

- ・参加者は7名で、1名ずつ紹介をしてもらいながら進めた。
- ・大分県：高齢者用施設の椅子「キュービック」「トライアングル」に関する取り組みと、「職員長期派遣研修」の紹介があった。具体的には、大学の紹介を通じて凸版印刷（株）にて約5ヶ月間研修を行い、UD視点のパッケージデザイン開発などに携わった内容が紹介された。以前は中小企業大学校でデザインに関する研修を行っていた時期もあり、形態は違うが、研修期間6ヶ月の後半3ヶ月は企業で研修を行っていたと思う。実際の現場に入ることは重要であり、良い取り組み



あると感じた。

- ・産総研：地域産業の活性化という観点から、各都道府県の公設試を受け入れている。ものづくりプロセスに有効な「評価グリッド法」や「デプスインタビュー」などについて詳しい説明があった。
- ・北海道：北海道はユニバーサルデザインに係るセクションとして、デザイン系と人間情報系に分かれていて、一部関わりがあるとの紹介があった。
- ・青森県：青森県配布の資料を見てお分かりのとおり、従来公設試の作成するパンフレットは堅いものが多いが、デザイナーを入れて見て分かりやすいものを作成しているとの紹介があった。
- ・埼玉県：埼玉県のユニバーサルデザインの取り組みはこれから。人材が行ったり戻ったりということもあったが、こういった交流の場も踏まえて活かしていきたい、との話があった。
- ・静岡県：先ほどパネルディスカッションで説明したとおり、いろいろやっている。最近ヒト試験の実施ハードルが高くなっている。
- ・HQL：畠中さんからHQLが行う「人間生活工学製品機能認証説明会」について紹介があり、公設試に積極的に活用してほしいとの要望があった。



【デザイン活用ツール研究交流会】（研究交流会幹事：北海道万城目氏）

- ・デザイン活用ツール研究会は今回で3回目の開催。
- ・参加者は11名で、殆どが初参加の方々。
- ・半数の話題の中に、「デザイン思考、デザインシンキング」が入っていた。これについて公設試が悩んでいることは、中小企業に向けてこういった考え方や手法のエッセンスをいかに伝えるか、どう実施時間を縮めるか、さらに結果についてどのように納得、腹落ちしてもらうか。また、デザイン思考と一言で言っても、IDEOをはじめ様々な取り組み方があってどれが有効なのかまだよく分かっていないこともある。
- ・大阪府では3年前に中小企業向けのデザイン思考ガイドブックを制作している。今回、このガイドブックで示した手法を実証するという事で、企業14者を対象としたデザイン思考実践プロジェクトの経緯について紹介があった。非常に良くできた成果事例集が配布されているので、是非ご覧頂きたい。
- ・変わったアプローチとしては、神奈川県「デザインの合意形成」に関する取り組みで、パネルディスカッションでも人気を集めていた。AIを取り入れたということで、AI活用については、どこかが先陣を切るのではないかと考えていた。
- ・AI活用は北海道も興味を持っていて、「AI×クリエイティブ」について今後考えてみたいと思っている。
- ・京都府は「Gマークを取ろう」という取り組みを行っており、Gマークのエントリーシートにある「コンセプトシート」をツールとして活用しながら、企画案をどんどんブラッシュアップするという面白い取り組み。



- ・デザイン活用ツールとは関係無いが、埼玉県から「公設試におけるデザイン人材のあり方」や「そもそもの必要性」といった話題が出された。これに関連して、「デザインセクションに人がいない。」「新規でデザイン人材を取れない。」「今後デザインセクションが無くなってしまいう心配がある。」といった声が宮崎県などから聞かれた。

【研究交流会についての質疑応答】

- ・質問（千葉県岡村氏）：デザイン活用ツール研究交流会で、皆さんのツールをガッチャンコするという流れは今のところまだ無いのか？それぞれのツールの良さがあるので、難しい部分もあると思うが、ツールを一本化したり、オンライン上で整理してより密なものにすることなど考えられる。
- ・回答（北海道万城目氏）：研究交流会発足時にそのような活動も将来的に行いたいというイメージは持っていた。この研究会は初参加の方が多く、まだ新しいツールが出てくる。このため、前段階としてそれらの情報をウェブ上で共有するところから始めるのが良いと考えている。具体的には「こらぼんウェブ」の公設試ページにツール情報をアーカイブ化し、そこから例えば各機関のツールでまとめられる部分や、複数機関で一緒に取り組める部分を見出そうと思っている。
- ・大阪府川本氏：「こらぼんウェブ」の話題が出たが、不具合があったので大阪府の方で修正を行った。その部分は直っていて、現在は情報をアップロードできるようになっている。しかし、開発から数年経ったが、情報量が増えていない。情報をアップロードするハードルは高いのかもしれないが、是非情報提供にご協力をお願いしたい。



b) 提案・要望事項

- ・神奈川県村石氏：現在、「人工知能とデザイン」をテーマとした研究に取り組んでいる。この中で、アンケート調査が必要になっており、この機会に皆様にご協力を頂きたい（アンケートは翌日のモエレ沼公園移動中に実施）。
- ・北海道及川氏：皆様にご協力をお願いしたい調査を計画しており、この場を借りてご説明させて頂きたい。配布資料「中小企業のデザインマネジメントに関する調査へのご協力お願い」の背景にあるとおり、デザインの戦略的活用が極めて重要になってきている。地域の公設試においては、デザイン導入に意欲的な中小企業がデザインの考え方、デザイン思考を取り入れられるように、いろいろな取り組みが行われている。一方、デザインを経営資源として活用するデザインマネジメントについては、知識体系の整備や有効性の検証などの取り組みが十分になされていない。デザインマネジメント活動を客観的にレビューし、より効果的な活動とするための取り組みを、札幌市立大

学の大学院の指導を受けながら自主的な学術研究課題として進めている。アンケート回答者としては公設試デザイン部門のリーダー、中小企業のデザインマネジメント経験の豊富な方を想定している。7月中旬までにウェブアンケート調査依頼のメールを、メーリングリストを通じて送付する。調査結果は取りまとめた上、皆様に送付するほか、関連学会などで発表を行う予定である。

c) 参加各機関からの情報提供など

- ・北海道日高氏：冒頭の道総研工業試験場の片山場長の挨拶でも触れられていた、経産省の「デザイン経営宣言」に関する資料について、経産省から紹介してほしいとの依頼があった。個人的には、「政策提言～意匠法の改正」の中で、デザインの役割を①ブランド構築のためのデザイン、②イノベーションのためのデザイン、③製品・サービスのコンセプト、外観、機能性、UI、顧客体験の品質向上、の3つに整理しており、非常に明快だと感じた。

d) 次期開催県、次年度開催県の紹介と挨拶

- ・埼玉県産業技術総合センター 小板橋 直人 様（平成30年秋 開催県）
平成30年秋期のデザイン分科会は11月15日（木）に予定している。この時期は東京ビッグサイトでデザイン関連のイベントが開催されているので、これに併せて15日は埼玉にお越し頂きたい。場所は北浦和の県立近代美術館で、交通の便は若干悪いのですが多数のご参加をお待ちしています。
- ・三重県工業研究所窯業研究室 榊谷 幹雄 様（平成31年春 開催県）
三重県でのデザイン分科会開催は前回は平成7年で、次回で2回目となる。平成7年の時は「伊勢神宮」と街並みづくりの取り組みとしてできたばかりの「おかげ横丁」に行っている。三重県は観光県なので、伊勢・志摩、鈴鹿サーキット、伊賀忍者、温泉、世界遺産の熊野古道など様々な観光資源があり、皆様にいろいろと行って頂きたいが、三重県工業研究所がある四日市からは遠い場所も多くなかなか難しい。見学先としては、大規模な施設としてホンダの工場、四日市コンビナート、シャープ亀山工場などがあるが、これらは本社が三重県に無い。三重県が生産量全国一位のモノには、鍵（美和ロック）、自動販売機、ろうそく（カメヤマローソク）がある。地場産業としては万古焼、伊賀焼があり、耐熱陶器の産地。土鍋など火にかけても割れない耐熱陶器の国内シェアは8割以上ある。他に有名な所として、ベビースターラーメンのおやつカンパニー、肉まん・あんまんの井村屋などもある。視察先として万古焼、伊賀焼は外せないと考えており、開催時期は6月を考えている。来年は是非三重にお越し頂きたい。
- ・その他の協議事項
特に無し。

閉 会 : 17:00

【6月29日・二日目】視察研修会

集 合 : 8:10

・ 集合場所 : JR 札幌駅北口バス乗り場

出 発 : 8:20

1. ワークショップ (モエレ沼公園) 09:00~11:30

・ 場所 : モエレ沼公園 ガラスのピラミッド内ワークスペース

・ ワークタイトル : 「X総研デザインチームのモテモテ度をupすべし！」

・ プログラム : 9:15~9:20 オリエンテーション

9:20~9:40 I 関与者の声の追加・取捨選択

9:40~10:30 II 解決のためのキーワードの検討

10:30~10:50 III 打ち手アイデアの検討

10:50~11:10 III X総研デザインチームのモテモテ化計画の検討

11:10~11:30 グループ代表発表

<p>①</p>	<p>②</p>
<p>③</p>	<p>⑤</p> <p>I 関与者の声</p> <p>① Gワークシート上にある、各関与者の声を確認する。 ・青：ネガティブな声（非モテ） ・ピンク：ポジティブな声（モテ）</p> <p>② 追加したい非モテ声があれば追加する。</p> <p>③ 追加したいモテ声があれば追加する。</p> <p>④ 共感できるもの3個以内に各自青シールを貼る</p> <p>【9:40まで】</p>
<p>⑥</p> <p>II 解決のためのキーワード</p> <p>① 202X年モテモテ化のためのキーワードを考える (15分) ・非モテ→解決すべき問題、モテ→打ち手のヒント ・自分がシールを貼ったモテ・非モテ声を中心に ・一人3~5枚程度、取捨選択もしながら</p> <p>② キーワードを似たもの同士でまとめる (20分) ・全キーワードの内容を確認する ・似たものをA4用紙にまとめ小見出しを付ける ・位置関係などを調整し終えたら大シートに貼り直す ・付せん追加はいつでもOK</p> <p>③ モテモテ化に効きそうだと感じられるキーワード3個以内に、理由を語りながら各自青シールを貼る (15分)</p> <p>【10:30まで】</p>	<p>⑦</p> <p>III 打ち手アイデア</p> <p>① 青シールが貼られたキーワードをヒントにモテモテ化のための打ち手を考える (20分) ・事前配付資料2種も参考に?</p> <p>【10:50まで】</p>
<p>⑧</p> <p>IV モテモテ化計画</p> <p>① 202X年までのモテモテ化計画を各自考え、個人ワークシートに記入する。 ・打ち手アイデアとそのねらいを考える ・最終的に誰からどんなモテ声をもたえそう? ・本日のワークの感想も一言お願いします。</p> <p>② グループ内で①の結果を共有し、発表者を一人決める。 ※発表者様には、次の訪問先にてトラクター体験運転ができるご褒美があります。</p> <p>③ 発表者はGワークシートにモテモテ化案を記入する。</p> <p>【11:10まで】</p>	<p>⑨</p> <p>グループ代表発表</p> <p>お一人3分×6グループ</p> <p>【11:30まで】</p>

- ・概要：6つのグループ（1チーム6〜7名）に別れ、事務局が用意したワークショッププログラム「X総研デザインチームのモチモチ度をu pすべし！」に沿って、グループメンバー間で公設試デザインセッションをとりまく関与者の声や課題を認識共有しながら、今後実践すべき取り組みアイデアを検討した。次に、グループワークの結果を踏まえ、個人ワークで公設試デザインセッションのこれからについて、簡単なロードマップにまとめた。最後は各グループごとに、代表者がグループワークの過程や結果について発表を行った。

トータル2時間のミニワークショップだったため、全体的に時間が足りず、十分なディスカッションや検討ができなかった感は否めないが、改めて公設試デザインセッションのあり方や活動について考える一つのきっかけにはなったのではないかと考える。なお、グループワークの代表者説明内容、個人ワークのロードマップファイルについては、この議事録とは別に取りまとめている（「こらぼんウェブ」のデザイン分科会記録からダウンロード可能）。



X総研デザインチームのモチモチ化計画		作成者
2018	2020	202X
次世代開発者・起業家のための未来ビジョンワークショップ	企業+デザイナープロジェクト	プロセスを明確化
リアルものづくりプロジェクトマネジメント(ファシリテーター)		リアルものづくり
小学生・中学生向けデザインワークショップ(デザインの現場)		次世代の起業家
未来の社会を考え、デザインで解決する人材育成 企業のデザイン相談から、プロジェクト型開発で支援	成長に合わせてリアルなものづくりプロジェクトにシフト	「未来を考えることでリアルなものづくりができた！」
開発ストーリーまんが プロジェクト進行スタンプ コミュニケーションツール(グループワーク)	デザインシリーズ	
本日のワークの感想・気づき・今後に向けた提案など		
<p>【感想】 皆さんと同じような支援事例と悩みを共有できました。 また、自分たち自身を知る必要性を感じました。</p> <p>【提案】 ・デザイン教育 ・デザインシリーズ ・デザイン思考の小学生への普及 ・企業支援コミュニケーションツール(スタンプ)</p>		

ロードマップ作成用個人ワークシート(例)

【ワークショップ参加者の声（抜粋）】

「最初はこんなことをして意味があるのかと思いましたが、自分の仕事の振り返りと、今後の指針になりました。」

「どの自治体も同じような問題を抱えており、情報共有することができた。デザインの効果を数値で示すような研究があれば、ブレイクスルーになると思う。」

「短時間でとても内容の濃いワークショップが出来、本当に役立ちました。それぞれの担当者同士の悩みや思いを共有することができ、情報交換ができて、とてもよい時間を過ごすことができました。実際に文字にしたり、話すことで自分の中でも整理ができてよかったです。」

「デザイン支援に関する課題が明確になった。外部（企業・デザイナー）とのつながりを増やす何かの必要性を強く感じた。」

「進行役が誰かはっきりせず、深まらなかった。モチベーションに温度差が感じられ残念だった。」

「企業との商品企画時に、課題などを色々出してもらおうが、自分のこと（公設試）となるとなかなかキーワードを出すのが難しい。」

2. 視察見学会（ヤンマーアグリソリューションセンター）…………… 13:00～15:00

- ・ 場所：ヤンマーアグリソリューションセンター北海道
- ・ 概要：“新しい「農」をクリエイトする”をコンセプトに、奥山清行氏がデザイン監修を行った施設を訪問し、ヤンマーが取り扱うトラクター製品の概要説明を受けた後、ジョンディアブランドのトラクター工場見学を行った。また、希望者はトラクターの試乗体験を行った。



《ヤンマーアグリソリューションセンター北海道出発》…………… 15:00頃

（移動）江別市→札幌市

解 散：16:00（JR 札幌駅北口）

以上